

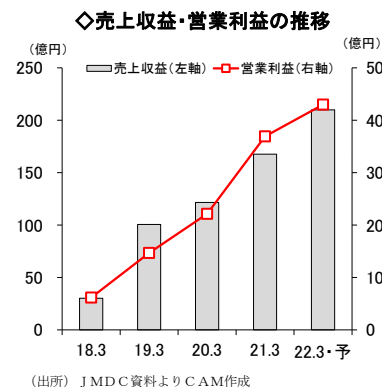
企業ニュース JMDC

(東証マザーズ : 4483) <https://www.jmdc.co.jp/>

作成者: 村上大志

医療のビッグデータサービスを提供

ヘルスビッグデータ、遠隔医療、調剤薬局支援の3事業を展開。主力のヘルスビッグデータでは、健康保険組合の保健事業を推進するため、健康保険組合が保有するデータの分析サービスのほか、自社開発のPHR（パーソナル・ヘルス・レコード）サービスを提供する。また、医療機関に対しても医療データ分析サービスや薬剤データベースの提供などを行う。さらに、こうした業務の付帯として受領した匿名加工情報をデータベース化し、製薬・生損保企業に対してデータサービスを提供している。遠隔医療では放射線診断専門医と医療機関をつなぐマッチングサービスなどを、調剤薬局支援では保険薬局に対しシステム開発・販売などを行う。21.3期のセグメント別売上収益構成比はヘルスビッグデータ61%、遠隔医療24%、調剤薬局支援15%。



ヘルスビッグデータの拡大が続く

21.3期の連結業績は売上収益が168億円、前期比38%増、営業利益が37億円、同67%増。一部の事業で新型コロナウイルスのマイナス影響を受けるも、主力事業のヘルスビッグデータの好調により会社計画を上回って着地した。特に医療機関向けサービスが大幅に伸長したほか、製薬・生損保企業向けのサービスも順調に拡大した。遠隔医療は新型コロナの影響により1医療機関あたりの画像診断件数が減少し売上高は同4%増にとどまったが、オペレーション改善などが奏功し営業利益は同25%増となった。

22.3期の会社計画は売上収益が210億円、前期比25%増、営業利益が43億円、同16%増。引き続きヘルスビッグデータの拡大が業績をけん引し、遠隔医療と調剤薬局支援はコロナ禍からの回復を見込んでいる。保険者支援サービスを提供する健康保険組合などの拡大で、データ元となる被保険者数は今期中に1,000万人に達する見込み。データ量の拡大だけでなく、コンサルティングやソリューションサービスなど付加価値の高いサービスも順調に立ち上がってきており、1社あたりの年間取引額は拡大している。

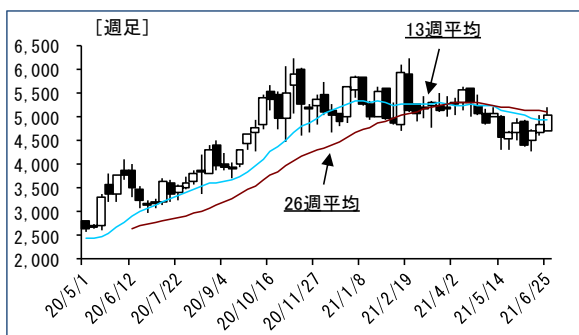
[株価動向・投資判断]

医療分野におけるデータ利活用の機運は高まっており、持続的な成長が期待できよう。

<4483 JMDC 業績:IFRS>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上収益	営業利益	税引前利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20.3	12,158 (21)	2,215 (51)	2,178 (54)	1,528 (51)	31.5	0.00
21.3	16,771 (38)	3,695 (67)	3,636 (67)	2,476 (62)	46.5	0.00
22.3 予	21,000 (25)	4,300 (16)	4,250 (17)	2,900 (17)	52.5	0.00



[主要株価指標] (売買単位: 100株)

株価 (2021/6/25)	5,050 円
年初来高値 (高値日)	6,250 円 (21/2/16)
同 安値 (安値日)	4,285 円 (21/6/8)
予想 P E R (22.3 予)	96.3 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	504.0 円
P B R	10.02 倍
予想配当利回り	0.00 %
(1株当たり配当金年0.00円)	
R O E (21.3)	12.0 %
発行済み株式数	5,606 万株